

区民委員会報告 別添資料

令和3年度3計画部会助言まとめ
(令和2年度実施事業分)

令和3年9月28日

地域のちから推進部

文化芸術部会の助言総括

1 対象施策

- (1) 施策4-1 足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する
4事業
- (2) 施策4-2 連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る
4事業

2 令和3年度文化芸術部会からの助言

(1) 文化芸術を通じたつながりの形成のために

人と人、人と場、人と情報がつながる環境を作るために、「文化芸術の輪を広げるプラットフォームの形成」が重点項目として設定された。部会で議論を重ねる中で、コロナ禍の影響によってプラットフォームの役割にも変化がおこっていることから、以下の3点が課題としてあげられた。

- ア** コロナ禍の活動について、施設管理者、アーティスト、区民からの文化芸術に関する情報を収集し分析すること。
- イ** プラットフォームの最も重要な「つながる」という目的を「単なるイメージではなく、ゴールとして何を目指しているのか」を共有するため、足立区が持つ文化芸術事業（活動）の強み弱みを把握すること。
- ウ** プラットフォームは、「音まち千住の縁」、などの新しいスタイルの文化芸術の成果を区外に積極的に情報発信して足立区のイメージアップにつなげることも重要である。

(2) 新しい生活様式への対応（情報発信のあり方）

ア オンラインとリアルの役割分担

コロナ禍によって、これまでのコンテンツの多くがオンラインになった。オンラインは、逆にリアル（対面）の意義を鮮明にし、オンラインでは知識、教育的視点、リアルでは熱量を感じる視点など、新たな発見もあった。今後も引き続きリアルとオンラインの役割分担を意識し事業を推進していくことが必要である。

イ ホームページとミニコミ紙のバランスと効果

ホームページとミニコミ紙についても、それぞれの役割のバランスと効果を再考し、質の向上を期待したい。情報だけでなく、事業や地域活動が、足立区の文化政策や文化芸術推進計画の理念とどのような関連性であるのかがわかるような内容となることが理想である。

ウ インフラ設備の整備

足立区には、多種多様な文化芸術の施設があるが、情報発信のインフラ（Wi-Fi設置など）が遅れている。それぞれの施設からリアルタイムで配信が可能であるだけでなく、次世代のデジタル環境を見据えた整備が望まれる。

（３）評価の質を高める

この２年間は、コロナの影響で文化芸術は大きな影響を受けた。

令和２年度文化芸術推進計画でも多くの活動が中止を余儀なくされ、実績値が０回（０人）、達成度「×」や「E」と評価された事業も数多くある。しかし、そのような事業でも、オンラインでの開催やコロナへの安全対策の中で新たな取り組みが試みられている。

- ・ 事業番号４３「文化芸術交流会の開催」では、予定されていた交流会は実施できなかったが、他自治体や民間主催の文化芸術事業に参加・視察や交流会の構築に向けた検討や区内文化施設事業者へのヒアリングが行われた。
- ・ イベントが中止になっても、複合施設である地域学習センターで『「ちょいスポ」「ちょいカル」「ちょい読み」キャンペーン』が「絵本の読み聞かせを行いながらお母さんたちにも軽い運動をしてもらおう」「運動・スポーツを楽しむ人が読書にもちょっと親しむ」ような、その時々状況に対応して分野を横断したユニークなプログラムが企画された。

文化芸術推進計画で予定されていなくても、新たな状況に対応して実施された活動が実績として評価されるような仕組みや、活動指標の見直し、評価基準の検討が必要である。定量的な実績値を元にした達成度だけではなく、事業の参加者が得たさまざまな満足感のような定性的な評価について議論することを提案したい。

（４）今後に向けて

文化芸術部会では、委員の専門領域や年齢構成が広く、さまざまな視点から毎回活発な意見交換が行われた。ある委員から「コロナ禍での文化・芸術への対策もまた一つの文化を創るのではないか」という意見が出た。

コロナ禍と積極的に向き合い、創意と工夫によってさまざまな活動を積み重ねることで、区民一人一人がより豊かで充実した毎日を送ることができ、足立区ならではの文化芸術活動のスタイルが生まれることを期待している。

文化芸術推進計画 施策評価シート（令和2年度実施事業分）

施策の柱	4	文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する
施策名	4-1	足立区の文化的な魅力を効果的に情報発信する
担当部・課	生涯学習支援室 地域文化課	
担当部：1～3、6を記入	推進委員会：5を記入	
庁内検討委員会：4を記入		

1 施策の方向性

文化芸術を身近に感じるためには、文化芸術に関する情報の充実も重要な要素となります。区民がどうすればストレスなく必要な情報を得ることができるのか、調査・検討を続けていくとともに、区内外の文化芸術に関連する情報の集約を図りながら、広報紙やICTの活用により人々の関心を引く効果的な情報発信を行います。

また、各学習センターにおいて、複合施設という特徴を活かし、文化・読書・スポーツに関する情報を、一体的に分かりやすく区民に届けていきます。

さらに、区内の文化施設やイベントを通して、文化芸術の楽しさをより広く知ってもらう普及活動を行います。

2 成果指標

指標名	文化芸術に関する情報発信に満足している区民の割合						
指標の定義	施設利用者アンケート及びイベント参加者アンケートにより実施 「文化芸術に関する区の情報発信に満足しているか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：満足でない～5：満足である）						
現状値（H30）	新規			目標値（R7）			80.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
実績値	新規	未実施					
達成率	-						

指標名	足立区は文化芸術に親しめるまちと感じている区民の割合【再掲】						
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術に親しめるまちであると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）						
現状値（H30）	新規			目標値（R7）			80.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
実績値	新規	未実施					
達成率	-						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	0	1	0	0	0	4
%	75%	0%	25%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況> R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
新型コロナウイルスの影響により、事業実施や区民の文化芸術活動の活動が停止していたためアンケートによる調査は未実施。

【要因分析】

- コロナ禍でイベントの中止があったが、『「ちょいスポ」・「ちょいカル」・「ちょい読み」キャンペーン』『おうちで音楽♪" Music at Home" 藝大×足立区』『おうちでミュージアム（郷土博物館）』『バーチャルツアー（郷土博物館）』などデジタルでの新たな情報発信を行い、年間で47,400回もの閲覧数となった。
- 各学習センターで発行しているミニコミ紙を、目標である年間約50万部発行し情報発信に努めた。

【その他実績等】

- 郷土博物館の企画展におけるPR動画の作成など、視覚に訴える効果的な情報発信に努めた。

<今後の方向性> 現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 令和2年度の取り組みを振り返り、事業内容に合わせ効果的な情報発信を継続していく。

【中長期の取り組み】

- 広報紙やICTの活用により、人々の関心を引く効果的な情報発信を行う。

<助言の反映状況> 助言の反映有無、その理由

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	—

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ・ コロナによってリアルでの事業展開が難しかったが、デジタルやオンラインを積極的に活用し、目標としていた18,000回のホームページアクセス数に対し、47,400回と大幅に上回ったことは大いに評価できる。
- ・ 緊急事態宣言や外出自粛時においても、気軽にアクセスできるオンラインやデジタルの需要が高まっていたと思われ情報発信におけるアクセス数の伸びも今後も期待できる。
- ・ ミニコミ紙も目標通り年間約50万部を発行し、デジタルと紙双方で情報発信を行っていたことは評価できる。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ・ コロナ禍で、デジタルやオンラインの発行が多くなる一方で、情報が埋もれてしまうという懸念もある。今後は、郷土芸能の動画保存や区内文化財のデジタルマップ作成など、内容に応じた効果的な発信が必要である。

(3) 「助言の反映状況」への評価

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
—	—	—	—

5 推進委員会による助言

(1) 「現在の達成状況」への助言

- ・ 「ちょいスポ」「ちょいカル」「ちょい読み」の試みは参加への敷居を下げ、だれでも参加しやすいフレーズと仕組みで大きな成果をあげた。継続を期待したい。
- ・ コロナ禍でのデジタル情報発信とミニコミ紙の発行の努力は評価できるが、閲覧数や発行部数のような数字だけでなく、それらの実質的な効果を精査する必要があるのではないか。
- ・ オンラインなどのデジタル化の中で、ミニコミ紙独自の役割（地域密着型情報発信、デジタルが苦手な層への情報発信など）が明らかになった。オンラインとミニコミ紙の効果のバランス（コストや年齢層ごとの関心度）をアンケートなどで検証できないか。

(2) 「今後の方向性」への助言

- ・ それぞれの事業や生涯学習センターのホームページには、効果的な情報発信という点から「閲覧のしやすさ」「簡便な参加申し込み」「さらなる内容の充実とデザイン性の向上」を期待したい。
- ・ ミニコミ紙には、足立区文化芸術推進計画の方向性をアピールするページや、理念が反映された情報の提示方法にすることで、地域の活動と足立区の文化政策の関連性を実現させて欲しい。

(3) 「助言の反映状況」への助言

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方

文化芸術推進計画 施策評価シート（令和2年度実施事業分）

施策の柱	4	文化芸術の輪を広げるプラットフォームを形成する
施策名	4-2	連携及び交流の機会を充実し、文化芸術の推進を図る
担当部・課	生涯学習支援室 地域文化課	
担当部	1～3、6を記入	推進委員会：5を記入
庁内検討委員会	4を記入	

1 施策の方向性

国の文化芸術推進基本計画では、「文化芸術の推進のためには行政機関、文化芸術団体、文化施設、企業等の民間事業者等の関係者相互の連携及び協働が重要である」とされています。
足立区内においても、様々なジャンルのアーティストや伝統ある文化芸術団体、私設の文化施設など、文化芸術に関する専門的な知識や技術を持つ主体が活躍しています。それらの主体がゆるやかにつながるプラットフォームを形成し、足立区の文化芸術の活性化を図ります。

2 成果指標

指標名	足立区の連携事業及び交流の機会が充実していると感じている区民の割合						
指標の定義	施設利用者アンケート及びイベント参加者アンケートにより実施 「足立区の連携事業及び交流の機会が充実していると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：充実していない～5：充実している）						
現状値（H30）	新規		目標値（R7）				70.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
実績値	新規	未実施					
達成率	-						

指標名	足立区は文化芸術の推進に力を入れていると感じている区民の割合						
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区は文化芸術の推進に力を入れていると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）						
現状値（H30）	新規		目標値（R7）				80.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
実績値	新規	未実施					
達成率	-						

指標名	足立区の文化芸術の推進施策を評価できると感じている区民の割合						
指標の定義	区政モニター及び3計画アンケートによる調査を実施 「足立区の文化芸術の推進施策を評価できると思うか」という質問を、5段階評価で行い、4と5を回答した人の割合（1：そう思わない～5：そう思う）						
現状値（H30）	新規		目標値（R7）				80.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
実績値	新規	未実施					
達成率	-						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	0	0	1	1	1	1	4
%	0%	0%	25%	25%	25%	25%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況> R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
新型コロナウイルスの影響により、事業実施や区民の文化芸術活動の活動が停止していたため区政モニターによる調査は未実施。

【要因分析】
リアルでの交流の機会やイベントの実施が大きく制限され、各事業の達成度も低い結果となった。

【その他実績等】

- 文化芸術交流会自体は実施には至らなかったが、区内の民間施設へのヒアリングやオンラインを活用した文化芸術に関連する交流事業に積極的に参加し、コロナ禍における交流会のあり方を模索した。
- 音まち千住の縁「仲町の家」では、ソーシャルディスタンスを意識した事業展開やオンラインイベントの実施など、コロナ禍であっても創意工夫を施しながら文化サロンとしての活用に務め、2,700人が来館した。

<今後の方向性> 現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- コロナ禍の中、リアルでの交流会は困難なことから、「人」「物」「情報」のつながりなども考え、交流会に繋がる事業を実施していく。
- 令和2年度の事業実施を踏まえ、リアルとデジタルの積極的な活用を踏まえた事業を展開していく。

【中長期の取り組み】

- アフターコロナ・ウィズコロナを念頭に、文化芸術にかかわる人々の交流を促進し、文化芸術の推進を図っていく。

<助言の反映状況> 助言の反映有無、その理由

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
2	2	2	—

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

<p>(1) 「現在の達成状況」への評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナの影響で活動が制限されていたとはいえ、交流の機会が失われてしまったことは大変残念な結果である。 ・ 重点項目である文化芸術交流会の開催においても、あり方の検討だけでなく、社会状況の変化に合わせ交流会を開催する意味や目的を今一度考え直す必要があると思われる。 <p>(2) 「今後の方向性」への評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度で新たに行ったオンラインやデジタルを活用した取り組みをフィードバックし、今後の事業展開につなげていくことは評価できる。 ・ 交流会という枠にとらわれず、「人と人」「人と場」「人と情報」がゆるやかにつながることで、誰もが文化芸術を楽しめる事業展開を期待する。 <p>(3) 「助言の反映状況」への評価</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。</p> </div>

全体評価	達成度	方向性	反映状況
—	—	—	—

5 推進委員会による助言

<p>(1) 「現在の達成状況」への助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナの影響で多くの「連携」「交流」の機会が失われたが、安全性への配慮の中で開催された事業が大きな成果を収めていること、また、「動画配信」や「ヒアリング」などの新たな取り組みへの努力が払われたことを評価したい。 ・ これらの新しい実績が反映されるような「指標の定義」と「目標値の検討」が必要ではないか。 ・ 足立区の施設には、オンラインで発信できる環境が整っていないので、文化・芸術団体の催しや交流が十分展開できなかったのではないか。 <p>(2) 「今後の方向性」への助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「交流会」をオンラインで開催し、区内の多くの文化関係者に視聴・参加を促し、裾野を広げる事が必要ではないか。 ・ コロナ禍による特別な状況を把握するために、事業関係者だけでなく足立区全体の文化芸術に係わる人々を対象としたWEBアンケート、インターネット調査、ヒアリングが必要ではないか。 ・ 「プラットフォーム」が、単なる連携、交流だけではなく、若い人たちが足立区から世界に発信する新しい芸術表現のサポートの機能を持つようなものになって欲しい。 ・ これからの文化芸術の活動は、ますますオンラインなどのデジタル技術に頼ることになる。遅れている公共施設のデジタルインフラを進めて欲しい。 <p>(3) 「助言の反映状況」への助言</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。</p> </div>
--

6 推進委員会評価に対する区の考え方

読書部会の助言総括

1 対象施策

- (1) 施策1-1 乳幼児に対する本に親しむ機会の充実
6事業
- (2) 施策1-4 子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信
12事業
- (2) 施策3-2 読書活動推進のための多様な連携と協創の推進
3事業

2 令和3年度読書部会からの助言

(1) 新しい生活様式に対応した読書

ア 子どもたちへの多様な働きかけの模索

各種の読書世論調査などでも示されるように、全国的に子どもたちの読書離れを指摘されることが多くなってきている。読書の喚起については、単に図書館に本を用意して利用を待つといった環境の整備だけではなく、読書の楽しさを伝えることや読書と関連した事業の展開など子どもたちに対する積極的な働きかけが必要である。

従来、このような活動は人を集めたイベントを中心として行われてきたが、コロナ禍で多くの人々を集めて直接的に働きかける活動は難しくなっている。短期的にはこのような状況がスタンダードとなる可能性があり、また子どもたち自身のライフスタイルも少しずつ変化してきている状況も相まって、従来のイベント中心の取り組みに加えて多様な形での働きかけの模索が必要であろう。昨今の状況の中で、区でも直接的なイベントに代わるものとしてオンラインイベントの開催や、「あだち絵本シアター」の動画の制作・配信といった取り組みがなされており一定の効果をあげている。今後も、社会状況や利用者の変化に対応した多様な活動が望まれる。

イ PDCAサイクルに基づく事業展開

このような活動を行う場合には継続的な評価や改善も重要である。たとえば、動画配信活動は長期間にわたって視聴することができるという利点がある反面、短期間を与えるインパクトはイベントなどに比較して小さい。また、関連するコンテンツを連続的に視聴することが容易であるなど、他のコンテンツとの相互効果が重要であるといった特徴も指摘される。単に動画コンテンツを一度作成して終わりではなく、動画配信の第2弾・第3弾や、他の施策の試行など多様かつ継続的な活動が必要であろう。

また、そのために何が読書の楽しさであり大切さであるのかを明確にするなどの調査と分析も望まれる。本が好きな人だけではなく、様々な方向に幅広く情報発信する工夫も求められる。最初の活動としては小規模でも良いので新しい事業をたくさん企画して実施してみることで、その上で評価を行って良かった事業をさらに広めることが重要であろう。

(2) デジタル時代に対応した読書支援活動

ア デジタル化により目指すもの

現在でもWeb上での動画配信など、デジタル環境を用いた読書支援活動は少しずつ始められているが、現今のコロナ禍という状況だけではなくデジタルネイティブ世代に対する読書支援活動においては、デジタル環境をどのように利用していくかは特に重要であろう。

近年、情報を受け取る経路が多様化してきた。多くの刺激を多方面から受ける子どもたちに対する読書支援では、図書との出会いの創出だけではなく、その先にある読書習慣につながる施策が重要である。電子書籍や動画配信などといった紙媒体以外を用いた読書や、読書という枠組みそのものの再構築も含め、子ども達に必要なものは何かという検討を深めること、また長期的な活動指針を策定していくことが望まれる。

イ より効果を高めるために

デジタル時代においては、提供したコンテンツの利用の広がり大きいことにも注目すべきである。発信したコンテンツの二次利用への壁を下げることであれば、発信の効果が大幅に高まることを期待できる。少なくともコンテンツに対するライセンスの付与が望まれよう。

(3) 保護者への働きかけ、大人に対する読書支援

ア 乳幼児期から成長後までの幅広い働きかけ

子どもの知的好奇心を刺激し読書への興味を喚起する上でも、また読書の楽しさを啓発する上でも、子どもたちが本に親しむためには保護者の役割が非常に大きい。コロナ禍で十分な活動が行えない中でも、乳幼児の保護者を対象とした「あだちはじめてえほん」事業は、幼児期の子どもと保護者に本とのタッチポイントを創出する事業として評価できる。また、このような保護者の役割は乳幼児段階だけではなく、子どもたちが成長した時期においても大きな影響があると考えられる。

イ 保護者へのノウハウの提供

子どもたちに対する読書指導に保護者への関与を促す施策は非常に重要であるといえよう。その際、子どもの本についての情報を適切に届けることだけでなく、どのように子どもに本を与えるかというノウハウの提供なども保護者が期待するところであろう。

ウ 大人自身の読書の重要性

上記のような保護者に対する働きかけは、子どもに対する働きかけという観点での活動だけではなく、広く捉えることも必要であろう。大人が読書する姿そのものが子どもに読書への興味を与えることも多い。その意味で大人の読書活動自体を活性化する施策を検討するなど、保護者という枠組みだけにとどまらない視点も重要である。たとえば、大人向けの本の紹介イベントや保護者への読み聞かせなど、大人と本との距離を縮めるための活動、大人を対象とした読書支援活動の充実を、多様なアプローチ法を用いて行うことも検討する価値があろう。

(4) 学校教育等との連携

ア 学校教育との連携

読書は学習のための有効な活動であると同時に、社会で生きていくための大きな情報源でもある。家庭内での読書、学校図書館などでの読書、公共図書館の利用など、さまざまな場面が独立するのではなく、社会教育と学校教育、さらに家庭との連携が重要である。特に、近年の学校教育のデジタル化や情報へのアクセス環境の整備などを受けて、子どもたちの読書環境は大きく変化してきている。教育委員会とも連携し、新しい読書環境、整備された情報へのアクセス環境を効果的に利用する手法の検討を行うことは、喫緊の課題であろう。

その際、デジタル化の発展は重要な要素であるが、デジタル化ばかりに焦点を当てるのではなく、対面での活動など従来の手法についても再検討することが不可欠である。コロナ禍においての人数制限や感染対策など、どのような準備をすれば活動を再開できるかについての情報提供は極めて重要と考えられる。

イ その他の主体との多様な連携

各種活動との連携・協創は、学校教育以外についても検討することができる。たとえば、運動・スポーツや文化芸術活動などに関わる図書館以外の区の施設（都市農業公園やギャラクシティ等）との共同企画などは、その一例であり、このようなコラボレーション相手の多様化は極めて有効であろう。他にも、本の中に見られる情報と現実の料理やスポーツとの関わりなど、幅広い観点からの協創活動の検討が望まれる。

読書活動推進計画 施策評価シート（令和2年度実施事業分）

施策の柱	1	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	1-1	乳幼児が本に親しむ機会の充実
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入 庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入	

1 施策の方向性

乳幼児期に本に親しむことは言葉を覚えるだけでなく、将来の読書習慣の基礎となる。本を通じて親子がふれあうことで、子どもの愛着形成等にもつながる。区立図書館や保育園等で、乳幼児が本に親しむ取り組みを行うとともに、子育て支援事業や乳幼児健診の機会を捉え、乳幼児が本に触れる機会を作っていく。

2 成果指標

指標名	親子での読み読みの割合							
指標の定義	3歳児健診時に実施するあだちはじめてえほんアンケートで、「親子で一緒に本を読んでいる」と回答した方の割合							
現状値（H30）	86.9%			目標値（R7）				97.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
実績値	86.9%	91.1%						
達成率	89.6%	93.9%						

指標名	1か月間に本を読んだ就学前児童の割合							
指標の定義	4～5歳児を対象とした、生活・ベジタベアンケートで、「本を一人で見たり読んだりする」と回答した方の割合							
現状値（H30）	83.9%			目標値（R7）				88.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
実績値	83.9%	77.1%						
達成率	95.3%	87.6%						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	4	0	1	2	0	0	7
%	57%	0%	14%	29%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況> R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
成果指標の「親子での読み読みの割合」は、平成30年度の実績値を上回ったが、「1か月間に本を読んだ就学前児童の割合」は、平成30年度の実績値を下回った。

【要因分析】
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、図書館等が臨時休館となったことで、本に触れる機会が減ってしまった。また、保育園等でも読み語りや園内での本の貸出が中止となったことも下回った要因の一つと考える。親子で一緒に本を読んでいる世帯が平成30年度よりも増加したことは、不要不急の外出を控えたことから自宅で本を楽しむ世帯が増えたことが要因の一つと推測される。

【その他実績等】

- おはなし会は新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら順次再開した。
- 読み語り動画を「動画deあだち」にアップし、親子で楽しめるよう発信を行った。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 緊急事態宣言解除等により、おはなし会やイベントが再開可能となったら、新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら実施していく。

【中長期の取り組み】

- 読書習慣が定着するよう、幼少期から本に親しめる機会を提供していく。
- 大人の読書への関心が子どもの読書習慣に影響を与えることから、周りの大人に対して本の楽しさや読み読みの大切さを伝えることで、子どもの読書習慣形成につなげていく。
- 子育て施設や保健センターなど、図書館以外の身近な場所でも本に親しめる機会を提供できるよう取り組んでいく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	—

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもたちに本の楽しさを伝える機会を作ることが困難であったと推察するが、感染症対策を講じながらおはなし会を再開したことや、新たに読み語り動画を作成したことなど、イベント実施以外の方法で読み語りの大切さを発信したことは評価できる。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ・ 図書館だけでなく、身近な場所で本に親しむことができることは、子どもが本を楽しむきっかけ作りにつながるため方向性の設定については評価できる。
- ・ 今後は新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意しながら、乳幼児の読書習慣形成につながる方法を工夫して、取り組みを強化してもらいたい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
—	—	—	—

5 推進委員会による助言

(1) 「現在の達成状況」への助言

- ・ コロナ禍においても、「あだち絵本シアター」など動画の制作・配信の取り組みがなされており、これらの工夫は評価できる。「あだちはじめてえほん」事業を通じた幼児期の子供と保護者に本とのタッチポイントの創出についても、成果をあげている。
- ・ 一方で、急速なコロナの拡大に対して、従来のイベント中心の取り組みが行えなかった場合の代替策は必ずしも十分とは言えず、評価指標も含めてさらに進展が必要であろう。

(2) 「今後の方向性」への助言

- ・ 乳幼児が本に親しむためには保護者の役割が非常に高い。大人向けの施策が子ども達へのサポートにも大きく寄与するという点からも、保護者と本との距離を縮めることを同時並行で進めることが重要であると思われる。
- ・ 短期的にはこのような状況がスタンダードとなる可能性もあり、今後も動画配信の第2弾・第3弾や、イベント以外の施策について、特にオンラインの活用を積極的に進めていくことが望まれる。
- ・ 発信したコンテンツ二次利用への壁を下げることであれば、発信の効果が大幅に高まることも考えられる。少なくともコンテンツに対するライセンスの付与が望まれる。
- ・ 出会いの創出の先にある、読書習慣につながる施策案が乏しい感がある。子ども達が読書習慣を身に付けるために必要なものは何かという検討から再構築する作業が必要だと思われる。
- ・ 幼稚園・保育園・こども園をはじめとした各種施設、各種イベントなどで、どのような対策をすればコロナ感染のリスクをおさえることができるのかについて、情報提供を積極的に行うことが望まれる。

(3) 「助言の反映状況」への助言

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

6 推進委員会助言に対する区の考え方

読書活動推進計画 施策評価シート（令和2年度実施事業分）

施策の柱	1	子どもの読書習慣につながる機会の充実
施策名	1-4	子どもや保護者に読書の楽しさや大切さを伝える啓発活動と情報発信
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	推進委員会：5を記入	
庁内検討委員会：4を記入		

1 施策の方向性

子どもの読書習慣形成にとって、保護者など周囲の大人が読書に関心を持つことが重要である。区立図書館や、幼稚園・保育園・学校等の施設で、子どもに読書の楽しさを伝えるとともに、保護者にも自らが本を楽しむことや読書に関心を持つことが子どもの読書習慣に影響することを伝えていく。また、親子で読書に親しめるよう、成長や発達段階に応じた本や子育て期に読める本の紹介を進めていく。さらには子育て支援の機会を活用した出産前の保護者への情報提供など、場や機会、インターネットの活用など多様なチャンネルを通じた取り組みを工夫し進めていく。

2 成果指標

指標名	子どもの読書と保護者の読書の関連を知っている保護者の割合							
指標の定義	1歳6か月児及び3歳児健診に実施する、あだちはじめてえほんアンケートで「子どもの読書冊数が、母親など身近な大人の読書冊数と関係があることを知っている」方の割合							
現状値（H30）	41.6%			目標値（R7）				80.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
実績値	41.6%	51.1%						
達成率	52.0%	63.9%						

指標名	親子で絵本を読む割合							
指標の定義	4～5歳児を対象とした、生活・ベジタベアンケートで、「親子で絵本を読む」と回答した方の割合							
現状値（H30）	75.5%			目標値（R7）				80.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
実績値	75.5%	77.1%						
達成率	94.4%	96.4%						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	5	0	0	1	4	3	13
%	38%	0%	0%	8%	31%	23%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況> R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
成果指標の「子どもの読書と保護者の読書の関連を知っている保護者の割合」と「親子で絵本を読む割合」とともに平成30年度の実績値を上回った。

【要因分析】
「子どもの読書と保護者の読書の関連を知っている保護者の割合」は、あだちはじめてえほん事業で「身近な大人の読書冊数との関連性」についてPRしたことや、学校だよりや学校図書館だより等で読書の大切さを保護者に伝える取り組みをしたことにより、増加したと考えられる。

【その他実績等】

- 小学生向けブックリストやティーンズ向け図書館情報紙を発行し、年齢に応じた本を紹介したことで、掲載した本の貸出につながった。
- 図書館ホームページやSNSを活用し、新しい本やオススメする本を紹介した。
- 自宅でも楽しめるコンテンツとして、図書館ホームページに「あだち読書通帳」の電子データや青空文庫へのリンク先を掲載するなど、インターネットを活用した取り組みを行った。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 乳幼児については、おはなし会の実施や親子で楽しめる本の紹介により、親子で読書に親しめる機会を増やしていく。小学生については、読みやすい本を中心に本を紹介し、読書へのきっかけづくりを行う。

【中長期の取り組み】

- 「保護者など周りの大人の読書習慣が、子どもの読書習慣に影響を与えること」を継続して発信する。
- 子どもへのアプローチに加え、図書館ホームページやSNSなどインターネットを活用し、子育て中の保護者へ子どもの年齢に応じた本の紹介を行うことで、子育て中の保護者に情報が届きやすいよう働きかけていく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
5	4	5	—

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ・ 「保護者など周りの大人の読書習慣が、子どもの読書習慣に影響を与えること」の認知が年々増加していることは、あだちはじめてえほん事業や学校から保護者に対して継続して発信している取り組みの成果であり評価できる。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ・ 保護者への働きかけが特に重要な施策であるので、様々な広報媒体の活用やアウトリーチ事業などを通して、保護者へのアプローチに特に注力されたい。
- ・ また、年齢や発達段階に応じた本を紹介するなど方法を工夫し、子どもや保護者の読書のきっかけ作りを充実させる取り組みを図られたい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
—	—	—	—

5 推進委員会による助言

(1) 「現在の達成状況」への助言

- ・ コロナ禍において十分な活動が行えない中でも、「あだちはじめてえほん」事業を通じた幼児期の子どもと保護者への本とのタッチポイントの創出などは、啓発活動の第一歩として評価できる。
- ・ このような活動はさらに充実させていくべきであり、対象となる子どもたちを広げていくことや、保護者に「どのような効果があるか」「どのような使い方があるか」など効果的な利用方法を伝えていくことなど、複数のアプローチを検討されたい。
- ・ 本施策は読書推進の柱となる施策であり、施策の展開にあたっては十分な検討が必要であろう。読書の楽しさや大切さとは何かを明確にするなどの調査分析や現状把握、評価を踏まえ、啓発活動と情報発信を行うことが望まれる。

(2) 「今後の方向性」への助言

- ・ 保護者への働きかけは特に重要な施策であり、大人の読書活動を活性化する施策の検討が必要である。大人への読み聞かせなど従来は行われてこなかった活動も含め、保護者への多様なアプローチ手法の検討と、特に注力すべき点の重点的な検討の両方が望まれる。
- ・ 社会教育と学校教育の連携も重要である。教育委員会と連携し、電子書籍、情報へのアクセス環境の整備を推進していくことの検討も必要であろう。
- ・ 幼稚園・保育園・こども園をはじめとした各種施設での対面活動も重要であることは明白である。人数制限や感染対策など、どのような準備をすれば適切な活動ができるかについての情報提供は極めて重要であろう。

(3) 「助言の反映状況」への助言

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

6 推進委員会助言に対する区の考え方

読書活動推進計画 施策評価シート（令和2年度実施事業分）

施策の柱	3	読書活動を通じた人と人とのつながりの形成
施策名	3-2	読書活動推進のための多様な連携と協創の推進
担当部・課	地域のちから推進部 中央図書館	
担当部：1～3、6を記入	推進委員会：5を記入	
庁内検討委員会：4を記入		

1 施策の方向性

読書が個人の楽しみに終わることなく、各人の多様な関心と活動につながることを目指します。
 そのため区立図書館においては、本や読書活動をきっかけに利用者同士がコミュニケーションを図れるような事業展開を進めるとともに、区立図書館、地域学習センター、生涯学習振興公社、民間事業者などが連携し、区民の交流を促し、多様な活動につながるような取り組みを行っていきます。
 読書をきっかけとして、文化やスポーツをはじめとする異なる分野への活動にもつながるような機会提供にも取り組みます。

2 成果指標

指標名	3分野連携事業への参加により、新たに読書を始めた区民の割合						
指標の定義	3分野連携事業の参加者アンケートにおいて、「定期的ではないが、読書をしています。」以上を選んだ区民の割合						
現状値（H30）	新規		目標値（R7）				50.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
実績値	新規	79.8%					
達成率	—	159.60%					

指標名	アウトリーチ事業の参加者数						
指標の定義	図書館の外で、読書活動推進事業に参加した方の人数						
現状値（H30）	新規		目標値（R7）				1,800人
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
実績値	新規	576人					
達成率	—	32.0%					

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	0	1	0	0	0	3
%	67%	0%	33%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況> R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
 3分野連携事業におけるアンケートの結果は令和7年度の目標値を上回った。新規のアウトリーチ事業については、参加者数は576人であった。

【要因分析】
 3分野連携事業における数値が高かったのは、運動・スポーツに関心がある区民に読書に触れる機会を提供する「ちょい読み」を通じて、読書への関心が高まったことが一因と考えられる。
 アウトリーチ事業については、ジェイヴェルデ大谷田でオンライントークイベントや本の交換会を実施し、新たな形式の交流が図られた。また、シアター1010の文化事業と連携し、絵本に関するイベントを実施したことで、図書館の外で絵本に親しむ機会を提供することができた。

<今後の方向性> 現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 令和3年度の3分野連携事業は、実施場所を区内の全学習センターに拡大し、区民が文化・芸術及び運動・スポーツへの関心や行動をきっかけに、読書活動により取り組みやすい環境整備を進める。
- 緊急事態宣言の解除等でアウトリーチ事業が再開可能となった際は、まず商業施設など身近な場所で事業を実施し、本の楽しさを伝えていく。

【中長期の取り組み】

- 読書をきっかけに人がつながるように、商業施設や街中など身近な場所でアウトリーチ事業を実施する。また、他の分野とも連携しながら本の楽しさを伝え、本に親しむきっかけ作りを行っていく。

<助言の反映状況> 助言の反映有無、その理由

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けするため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	—

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ・ 3分野連携事業では、他分野への興味関心を入口とし、読書未実施層の行動変容につながり始めている。結果の詳細な分析を通じて、さらなる事業拡充を図ってほしい。
- ・ 取り組みの視点や効果について、キャンペーン期間や実施している地域学習センターだけの盛り上がりとならないよう、他の事業実施の際や、広報（SNS発信）などに意識をして取り入れる工夫をしてほしい。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から外に出向く事業を展開できない時期が多く、参加人数が下回ってしまったが、代わりにオンライントークイベントや本の交換会を新たに工夫して実施した点は評価できる。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ・ 3分野連携事業では、現場での参加者との対話から得られた「生の声」からニーズを分析して、プログラムの魅力向上を図っており評価できる。
- ・ アウトリーチ事業によって、図書館以外の場所へ事業実施の働きかけを積極的に行うことと、分野を超えた連携事業を手法を工夫して行うことで、読書に親しむポイントを数多く提供できるよう努めてほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
—	—	—	—

5 推進委員会による助言

(1) 「現在の達成状況」への助言

- ・ オンライントークイベントや「図書館に生物園がやってくる」のイベントなど、コロナ禍においても各種の施設との連携を行い、各種の工夫した取り組みが見られたことは評価できる。
- ・ 本が好きで読書習慣のある方以外へもアプローチをしようという試みと方向性は良い。
- ・ ただし、「ちよい読み」事業の浸透はまだ途上であり、広報活動の充実などを続けることが望ましい。

(2) 「今後の方向性」への助言

- ・ 未来の読書活動にも大きく影響する活動であり、より一層協創の姿勢で幅広いアイデアを取り入れていくことが望ましい。
- ・ 「協創」については、次のように幅広い観点から検討して欲しい。
 - ① コラボレーション相手の多様化…スポーツや文化活動などに関わる図書館以外の区の施設（都市農業公園やギャラクシティ等）との共同企画など。
 - ② 活動の対象者の多様化…現在の利用者だけではなく、将来の利用者（未来の保護者など）、さらには利用者の周囲にいる区民などにも浸透する施策が望まれる。
 - ③ 1つの取り組みに対する長期的なコミュニケーションという視点…イベント前とイベント後の情報発信、さらにイベント企画そのものへの提案募集など、幅広い検討が必要。
 - ④ 情報の具体化に関する広がり…本の中に見られる情報と現実の料理やスポーツとの関わりなども含めて検討されたい。
- ・ 本が存在する環境という既存の概念を取り払い、「〇〇と本」という感じで良いので、本が好きな人だけでなく、様々な方向に幅広く情報発信する工夫が必要。そのためにも、新しい事業をたくさん企画して実施してみることで、その上で評価を行って良かった事業をさらに広めることが必要であろう。

(3) 「助言の反映状況」への助言

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

6 推進委員会助言に対する区の考え方

運動・スポーツ部会の助言総括

1 対象施策

- (1) 施策1-2 誰もが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実
10事業
- (2) 施策2-1 身近な場所における運動・スポーツの推進
6事業
- (3) 施策2-2 協働・協創による他分野との連携の仕組みづくり
3事業

2 令和3年度運動・スポーツ部会からの助言

(1) 新しい生活様式を視野に入れた、身近な場所での運動習慣化へ

自宅から離れた場所で実施されるスポーツは、様々な条件の調整がつけば参加可能であるが、実際には継続的な参加は難しい。また、コロナ禍においては、集団で運動・スポーツをすることや、活動場所や行動そのものにも制限がかかる。

まずはどのような環境であれ、時間的にも物理的な制約が少ない「身近な場所」で運動が可能となるような工夫が求められる。極力負担の少ない状況で、いつでも、だれでも運動できるしかけをつくり、区民の運動の「習慣化」を目指したい。

ア 自宅・自宅近くの公園・オンラインの活用

乳幼児の子育て中の人や一人で運動・スポーツをしようとする場合は、子どもを預かってもらうことが必要であるし、障がいを持っている方は、ヘルパーの確保が必要となる場合もある。仕事が生活の中心となる30代から50代の中高年は、そもそも運動時間の確保そのものが難しい。

そのような場合であっても運動に取り組める切り口として、「自宅」「自宅近くの公園」「近所のウォーキング」「オンラインの活用」等が考えられる。具体的なアイデアとしては、決まった時間に音楽を流して体操を意識づけたり、健康器具設置の公園を増やしたり、公園に民間のインストラクターを派遣したり、近所の見どころ散歩コースを紹介したり、隙間時間でも実施できる「おうち体操」やエクササイズをオンラインで発信したりするなどはいかがだろうか。

イ 継続のための工夫

取り組むきっかけを発信し、次はそれをいかに継続できるよう工夫するかがカギとなる。既存の集客事業にとらわれず、区民一人ひとりが気軽に取り組める仕掛けを組み込んだ事業展開に期待したい。

(2) 三分野を活用した運動・スポーツへのきっかけづくり

運動・スポーツに関心がない方は、自発的にHP等からその分野の情報にアクセスすることは少ないであろう。一方、東京2020大会を通して、日頃関心がなか

ったり、見たことがなかったスポーツも含め、多くの競技シーンを目にする機会が増えた。これを契機に運動・スポーツへの興味を高め、区民の意識に残すためには、まずは、様々な競技シーンのPR動画作成など、視覚的に運動・スポーツの魅力がわかる発信が求められる。

ア 「みる」スポーツの充実

東京 2020 大会のテレビ観戦などで目にしたパラスポーツも含めた新しいスポーツや、脚光を浴びた競技を中心に積極的に紹介し、「みる」スポーツを通して運動への関心を高めることを提案したい。

イ 運動・スポーツ以外の切り口からの導入

運動・スポーツに興味がない層へは、三分野連携という視点を今以上に活用してほしい。集客して観戦をすることが難しくても、雑誌や本で運動・スポーツを「見る」こともできる。さらに知識を得ることで、運動・スポーツへの興味を深めることもできる。スポーツ選手がおすすめる書籍や、競技そのものを紹介する雑誌や本を紹介する「ちょい読み」といった取り組みをもっと広めてほしい。

また、「花や野鳥や歴史×ウォーキング」などの組み合わせで「ちょいカル」を実践するなど、運動・スポーツ以外の切り口からの導入で、運動への関心を高める仕掛けづくりをさらに期待する。

(3) スポーツを通じた共生社会の実現に向けて

身近なところで、誰もが参加できるスポーツの実現のためには、障害の有無、年齢、性別、国籍に関わらず、様々な人々が分け隔てなく生活できる共生社会の視点が欠かせない。そのためには、情報発信の工夫、スポーツボランティアやスポーツコンシュエルジュの活用、インクルーシブな環境形成、地域スポーツミーティングの積極的な展開を提案したい。

ア 情報発信の工夫

視覚障害者が情報を理解できるよう足立区のHPを音声で読み上げたり、外国人が理解できるよう多言語で発信したりなどの配慮が必要である。

イ スポーツボランティアの活用

区スポーツ施設内にスポーツボランティアを配置し、一緒に活動に参加し、着替えを手伝ってもらなどちょっとした寄り添いや手伝いが得られる仕組みづくりに取り組んでみてはいかがだろうか。

ウ インクルーシブな環境形成

施設の段差、トイレの整備、点字での案内などの整備が挙げられる。これらの整備状況や、移動支援等の福祉分野の情報は、障がい者が運動・スポーツに取り組めるかどうかを判断するためには欠かせない。スポーツコンシュエルジュが相談を受ける際、競技の紹介にとどまらず、情報発信のハブとして、より積

極的に実際の活動につながる情報の提供を心がけられたい。

エ 地域スポーツミーティングの積極的な展開

部活動の指導員や体育協会に加盟する競技スポーツ団体の指導員、子ども身にも参加してもらい、勝利至上主義や技術力の向上のみではなく、共生社会の視点や生涯スポーツの視点、スポーツの楽しさ、健康維持につながる取り組み等、様々な視点を養っていただきたい。併せて、オランダとの連携も継続し、共生社会の新しい価値観の啓発を強化していただきたい。

運動・スポーツ計画 施策評価シート（令和2年度実施事業分）

施策の柱	1	運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり
施策名	1-2	だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実
担当部・課	地域のちから推進部 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	推進委員会：5を記入	
庁内検討委員会：4を記入		

1 施策の方向性

ライフステージ等に応じた運動・スポーツを楽しむ機会の充実だけでなく、世代や障害の有無を越えて、だれもがともに同じ空間で運動・スポーツに親しみ、楽しみや喜びを共有できる機会を充実させていくことは、人と人との結びつきや地域の絆を形成していくために重要である。
 区民のスポーツに対するニーズに応じて、運動・スポーツを「する」だけでなく、「みる」機会の充実を図り、運動・スポーツを通じて多様な区民が交流する共生社会の実現へとつなげていく。

2 成果指標

指標名	運動・スポーツを観戦した区民の割合								
指標の定義	3計画アンケートにて、頻度にかかわらず、過去1年間に運動・スポーツを「観戦した」と回答した方の割合【令和3年度実施】								
現状値 (H30)	65.9%			目標値 (R7)					80.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
実績値	65.9%	-							
達成率	-	-							

指標名	区民のスポーツ実施率【再掲】								
指標の定義	3計画アンケートにて、運動・スポーツを「週に1日以上実施している」と回答した方の割合【令和3年度実施】								
現状値 (H30)	35.9%			目標値 (R7)					50.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
実績値	35.9%	-							
達成率	-	-							

指標名	イベント後に運動・スポーツへの意欲が向上した区民の割合【再掲】								
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、運動・スポーツを「ほとんどやらない」と回答した方のうち、イベントに参加して運動・スポーツをやりたいと「思った」「やや思った」と回答した方の割合								
現状値 (H30)	新規			目標値 (R7)					80.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
実績値	新規	86.7%							
達成率	-	108.4%							

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	0	0	0	1	2	7	10
%	0%	0%	0%	10%	20%	70%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況> R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
 成果指標の令和2年度実績値（86.7%）は、令和7年度目標値（80%）を上回った。
 新型コロナウイルス感染症の影響により、中止事業も多くあったが、感染対策を徹底し実施した「関東女子フットサルリーグ親子体験教室」「ウォーキング教室」でアンケート調査を実施した。

【要因分析】
 本施策で想定していた「する」「見る」事業に関しては、不特定多数の参加となるイベント形式の事業であったため、ほとんどが中止となった。唯一実施されたイベント「関東女子フットサルリーグ親子体験教室」は、人数を絞り募集した結果、34組68名の参加があり、リーグの試合観戦を盛り込み好評だった。

【その他実績等】
 ・ スポーツ教室、スポーツ広場を、感染症対策を取りながら可能な限り実施した。

<今後の方向性> 現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
 ・ コロナ禍を踏まえ、不特定多数の集客を主体とする事業の再構築を行う。

【中長期の取り組み】
 ・ 年齢や障害の有無を問わず参加できる事業を通して、多様な区民の相互理解を促進していく。

<助言の反映状況> 助言の反映有無、その理由

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	—

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ・ 不特定多数の参加するイベントの実施が困難な状況ではあるが、感染対策や対象を絞って、できる事業に取り組んだ点は評価できる。
- ・ 成果指標は目標値を上回っているが、少数イベントでのアンケート結果となっているため、指標の妥当性について検討されたい。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ・ オンライン活用、個人参加型事業等、集客に頼らない運動・スポーツの機会提供方法について検討されたい。
- ・ 令和2年度の成功事例を踏まえた展開を期待する。

(3) 「助言の反映状況」への評価

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
—	—	—	—

5 推進委員会による助言

(1) 「現在の達成状況」への助言

- ・ 対象となった事業の多くがコロナで実施できていなかった点は、致し方がない。しかし、今後も人数制限や実施方法の工夫などコロナ対策を意識しながら、可能な限り事業の継続や増加を検討していただきたい。

(2) 「今後の方向性」への助言

- ・ スポーツは、オンラインのみだと実感がわきにくいので、スポーツ広場等、指導者がいて手軽にスポーツができる場の充実を図り、運動・スポーツの習慣化につなげてほしい。
- ・ 「誰もができるスポーツ」として、老若男女、障がい者等が取り組める種目を取り入れてみるとよいのではないと思われる。
- ・ コロナ禍でも実施事業数を増やすために、団体のみならず、個人への情報提供も検討をお願いしたい。特に視覚障がい者への音声発信や外国をルーツとする方々への多言語発信なども含めて、情報がすべての人にいきわたるよう手段を検討していただきたい。
- ・ 中長期の取り組みとして、アフターコロナに向けて、東京2020大会で注目を浴びた競技等、集客イベントをはじめとした「みる」スポーツに関わる機会の準備をしっかりと行ってほしい。

(3) 「助言の反映状況」への助言

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の

6 推進委員会評価に対する区の考え方

運動・スポーツ計画 施策評価シート（令和2年度実施事業分）

施策の柱	2	運動・スポーツの楽しみを深める場の提供
施策名	2-1	身近な場所における運動・スポーツの推進
担当部・課	地域のちから推進部 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	推進委員会：5を記入	
庁内検討委員会：4を記入		

1 施策の方向性

稼働率の高いスポーツ関連施設を新規利用者にも提供できるよう利用調整などの環境改善を行うだけでなく、自宅や職場など生活に身近な場所で気軽にできる運動・スポーツを推進していく。また、地域での活動やコミュニティの拠点となる学校、区施設、総合型地域クラブと連携し、運動・スポーツをより身近に感じることができ環境づくりに取り組んでいく。

2 成果指標

指標名	身近な場で運動・スポーツを行う区民の割合						
指標の定義	世論調査にて、運動・スポーツを行っている場所について「自宅」「自宅周辺」「職場」「職場周辺」と回答した方の割合						
現状値 (H30)	新規			目標値 (R7)			
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
実績値	新規	72%					
達成率	-	144.0%					

指標名							
指標の定義							
現状値 (H30)				目標値 (R7)			
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
実績値	0						
達成率	-						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	0	0	1	0	1	5
%	60%	0%	0%	20%	0%	20%	100%

3 担当部における評価

<p><現在の達成状況> R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等</p> <p>【達成状況】 成果指標の令和2年度実績値（72%）は、令和7年度目標値（50%）を大きく上回った。</p> <p>【要因分析】 各事業の取り組みによる成果のみならず、新型コロナウイルス感染症の影響により、外出を控え、自宅周辺で運動・スポーツを楽しむ区民が増加したことが一因と考えられる。</p> <p>【その他実績等】</p> <p>(1) コロナ禍でも自宅周辺で自主的に楽しめる運動・スポーツの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者向けに3密を避けて取り組める運動の普及啓発チラシを配布 ・ 区内ウォーキングマップを整備 <p>(2) 学校、公園、区スポーツ施設といった身近な運動・スポーツの場を整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1,322団体が学校開放事業を活用できるよう、登録更新作業を実施 ・ 梅田公園を改修し、エリア内になかったボール遊びコーナーを設置 ・ 伊興地域体育館の改修（床張替、照明LED化等）が終了、鹿浜地域体育館の改修（エアコン導入等）に着手
<p><今後の方向性> 現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等</p> <p>【短期の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍を踏まえ、ウォーキングなど身近な場所で気軽に楽しめる運動・スポーツを推進する。 ・ 職場周辺で運動・スポーツを楽しむ人を増やすため、区内企業の健康経営を後押しするなどの取り組みを進める。 <p>【中長期の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動・スポーツの無関心層の関心喚起や未実施層の行動生起につながるよう、気軽に取り組める運動・スポーツの普及啓発を行う。 ・ 既存の場の整備とともに、民間のスポーツ事業運営事業者と連携を深めつつ、運動・スポーツを身近に楽しめる新たな場の整備に取り組む。
<p><助言の反映状況> 助言の反映有無、その理由</p> <p>※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。</p>

全体評価	達成度	方向性	反映状況
5	4	5	—

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ・ 学校・公園などの環境整備に加え、自宅やその周辺で取り組めるウォーキングマップの作成などコロナ禍でも可能な事業を中心に展開したことで、施策目標達成に向け、十分な成果が出ていると評価できる。
- ・ 学校、公園といった身近な場所使って運動・スポーツに親しめるよう工夫をしている点は評価できる。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ・ 現状の身近な場所での運動・スポーツ推進のみならず、職場という新たな運動・スポーツのフィールドの開拓を検討しており評価できる。
- ・ 民間のスポーツ事業運営事業者との連携により、運動・スポーツがより身近なものとして区民に浸透していくことを期待する。

(3) 「助言の反映状況」への評価

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
—	—	—	—

5 推進委員会による助言

(1) 「現在の達成状況」への助言

- ・ 運動・スポーツを身近な場所で行っている区民の割合が72%にのぼり、目標を大幅に達成（144%）したことは、評価できる。
- ・ パークで筋トレや健康器具の設置、ボール遊びコーナーの増設など、公園の活用や整備を積極的かつ計画的に行っていることは評価できる。
- ・ 1つの公園の改修に対し、より迅速な対応が望まれる。

(2) 「今後の方向性」への助言

- ・ 成果指標の目標達成の要因として、コロナ禍ゆえに身近な場所で運動・スポーツをする区民が増えたと推測される。中長期の取り組みとして、コロナ終息後、運動・スポーツに取り組み始めた区民が継続していけるような魅力的な事業を実施してほしい。
- ・ 区の公園・施設等は限られているため、民間スポーツクラブとの連携により、身近で運動・スポーツのできる場を増やしてほしい。また、区の資源となる公園や施設・大学・民間スポーツクラブの3者で何かできないか検討してほしい。
- ・ 公園の使用法やコンセプトの情報発信にあたっては、単一の公園にとどまらず、エリア単位で実施するとともに、必要に応じて近隣自治体や都の公園利用も選択肢にあるということを促しても良いだろう。
- ・ 子どもの運動遊びや親子遊びを公園で安心してできるような人的環境整備の検討も期待する。例えば、民間指導者を公園へ派遣し、プレイリーダーのような活動を有償の活動として定期的に行うことで、安全に運動に参加できる親子が増え、公園を軸とした子育て支援につながるだろう。

(3) 「助言の反映状況」への助言

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方

運動・スポーツ計画 施策評価シート（令和2年度実施事業分）

施策の柱	2	運動・スポーツの楽しみを深める場の提供
施策名	2-2	協働・協創による他分野との連携の仕組みづくり
担当部・課	地域のちから推進部 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	推進委員会：5を記入	
庁内検討委員会：4を記入		

1 施策の方向性

運動・スポーツだけでなく文化活動や体験・学習を行うことができる複合施設であるという地域学習センターが区内に13館あるという強みを生かし、文化・読書分野と連携し、運動・スポーツへの関心喚起、活動の実施につながる様々な取り組みを推進していく。
また、庁内の他部署、民間団体や事業所など、運動・スポーツ分野だけでなく、他分野との連携を積極的に推進していく。

2 成果指標

指標名	運動・スポーツに関心のある区民の割合【再掲】						
指標の定義	3計画アンケートにて、運動・スポーツに「関心がある」と回答した方の割合【令和3年度実施】						
現状値（H30）	70.7%			目標値（R7）			85.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
実績値	70.7%	-					
達成率	-	-					

指標名	3分野連携事業への参加により、新たに運動・スポーツを始めた区民の割合						
指標の定義	3分野連携事業の参加者アンケートにおいて、「定期的ではないがスポーツをしています。」以上を選んだ区民の割合 ※行動変容ステージモデル…「無関心期」「関心期」「準備期」「実行期」「維持期」で構成						
現状値（H30）	新規			目標値（R7）			50.0%
	H30	R2	R3	R4	R5	R6	R7
実績値	新規	44.6%					
達成率	-	89.2%					

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	2	0	0	0	0	1	3
%	67%	0%	0%	0%	0%	33%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況> R7目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

成果指標の令和2年度実績値（44.6%）は、令和7年度目標値（50%）を下回った。

【要因分析】

目標達成とはならなかったが、令和元年度実績値（21.1%）からは倍増している。本を読み「ながら」運動要素を組み込む等の、「取り組みやすさ」が一定の成果につながったと考えられる。

【その他実績等】

- ・ スペシャルライフコートを活用した事業として、障がい福祉課と連携し、区内障がい福祉団体を対象とした「スポーツ体験教室」を開催
- ・ 観光交流協会、パークイノベーション課と連携し、区内の観光名所や公園を取り入れたウォーキングマップを作成し、HPで公開した。また、さくらフォトコンテストへの応募記事とのリンクをするなど工夫をした結果アクセス数の増につながった（H30：676,269件⇒R2：815,531件、20.6%増）。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- ・ スポーツを入口としないアプローチを検討し、運動・スポーツに興味関心が薄い区民へ普及啓発を行う。
- ・ 3分野連携事業において、令和2年度に実施したセンターのノウハウを全センターに水平展開し、運動・スポーツの習慣化を図っていく。

【中長期の取り組み】

- ・ スポーツをきっかけとした共生社会実現のため、福祉サービス事業所等、関係者との連携を深めていく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	4	—

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ・ 3分野連携事業では、他分野への興味関心を入口とし、運動・スポーツ未実施層の行動変容につながり始めている。結果を分析し、さらなる事業拡充を図ってほしい。
- ・ 障がい者スポーツについて、障がい者福祉事業者やスポーツ分野の民間事業者と取り組み始めたことは評価できる。
- ・ 3分野連携の取り組みや効果について、スポーツ振興課が実施する事業でPRするなど、更なる連携ができる工夫をしてほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ・ 3分野連携事業では、現場での参加者との対話をもとに得られた「生の声」からニーズを分析し、プログラムの魅力向上を図っており評価できる。
- ・ コロナ禍で情勢が変化し、活動も制限されている。広い視野を持ち、さらなる他機関との連携を実施してほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

全体評価	達成度	方向性	反映状況
—	—	—	—

5 推進委員会による助言

(1) 「現在の達成状況」への助言

- ・ 3分野連携という新しい切り口から運動・スポーツへの促進を図れるようになった事は評価できる。その中でも「ちょいスポ、ちょいカル、ちょい読み」の活動が大幅に増えており期待できるが、中止の事業も多くあったので、評価の難しさがあった。
- ・ 3分野連携の内容は、学校教育、保育や学童、児童館や放課後子ども教室、子育て支援の分野でも深く関連するものである。「3分野連携」という各分野のみを入口としない視点の有効性を、子育て支援の関係所管に周知するとともに、保護者やスタッフ、区民に対しても積極的に情報発信していただきたい。

(2) 「今後の方向性」への助言

- ・ 公園など身近な場所における活動については、多世代の交わりや今ある事業の活用、文化・読書・スポーツの連携という視点からも、子ども食堂、大学生（単位認定も検討）、公園の木陰での読み聞かせボランティア等、スポーツを入口としない既存の活動から、運動・スポーツへつなげていくことも良いだろう。
- ・ 今後も春夏秋冬で、「花ウォーキング」「プールで…」「紅葉の寺めぐり」「冬のスポーツ体験」等、スポーツ所管以外からの様々な情報を連携することで、幅広い区民へ運動・スポーツへの興味関心を広げることができるよう取り組んでいただきたい。
- ・ 区内にある民間スポーツクラブをもっと活用するとよいと思われる。区民へ民間スポーツクラブ利用料の補助制度等運動参加のサポートや場所の提供、イベントの実施会場として利用する等の連携をすることで、身近で運動・スポーツに取り組む区民が増えると思われる。

(3) 「助言の反映状況」への助言

※ 令和2年度実績分については、令和3年度文化・読書・スポーツ推進委員会の審議過程にて助言を受けるため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方